

愛知県更生保護協会理事長賞（中学生の部）

半人前の僕達

尾張旭市立東中学校 二年

西

仁二郎

僕には今でも強く心に残っている事件があります。今から二年前の二〇一五年八月に大阪府寝屋川市付近で起きた、中学一年生の男子生徒と女子生徒の殺人事件です。

事件はまず、中学生の二人がもう二日も行方不明であるというところで、ワイドショーやニュースで大きく報道されました。後に女子生徒の遺体は前日に発見されていたことが分かりましたが、男子生徒がなかなか見つからずニュースや新聞では連日のようにこの事件の報道をしていました。

僕はその当時小学校六年生で、半年後の中学入学をとても楽しみにしていました。僕がイメージしていた中学校生活は、友達がたくさんでき、新しい部活動が始まるなどわくわくする事ばかりなのに事件が細かく報道されていくにつれて僕は中学生になるのが不安になっていき

ました。

まず友人によって行方不明になる前の二人のLINE（無料通話アプリ）のやりとりが公表されていきました。また行方不明時の二人がうつっていた防犯カメラの映像もテレビのニュースで公開されました。

僕には二人のLINEのやりとりが信じられませんでした。LINEでは、夜遅くに友人の家へ泊まりに行きたいとお願いしたり、友人達を野宿に誘うようなやりとりが残っていました。まだLINEをやったことのない当時の僕は、このようなことが中学生には当たり前なのだろうかと心配になりました。防犯カメラの映像では、二人はおびえる様子もなく、ごく自然に深夜の商店街をうろろろしていました。また、二人が周囲の大人の人間に注意される様子もありませんでした。夜の街は、僕に

とって何がおこるか分からない深い闇のようで今でもとても怖いのに二人に恐怖心はなかったのでしょうか。

僕はこの事件がなぜ起きてしまったのか、なぜ防げなかったのかを考えました。僕はまずそこに足りないのは家族、特に両親の存在だと思えます。大切な我が子を亡くしてしまい、二人の生徒のご家族をとても気の毒に思いますが、一番身近で一番親身になって子供の安全を守るべきであったご家族の責任は重大だと思えます。僕はまだリビングでしかLINEやインターネットをすることを許されていません。パスワードで見れなくする事も許されていないので母はたまに僕のLINEをチェックしているようです。僕としては信用してもらえていないようであまりうれしくありませんが、世の中の色々な事件を思うと母のような行動は必要だと思えます。また母は僕が出かける時も、誰と行くのか、どこに行くのか、何しに行くのか、何時に帰るのかとてもしつこく質問できます。帰宅したあとも、友人とけんかしなかったか、何を食べたのか、お金をいくら使ったのか、とてもしつこく質問してきます。正直少々うっとうしいなあと感じる時も多々ありますが、これも僕を心配しての行動だと今では必要な事だと思っています。

次に足りなかったのは地域の目だと思えます。事件後に女子生徒の周囲の人間が、彼女が寝袋を持って野宿す

る姿を見かけた事があると証言していました。その時点できちんと注意していれば、商店街をうろろろしている二人を家に帰るようにきつく注意してくれる人がいれば、最悪の結果にはならなかったのではないかと思います。最後に、このような事に巻き込まれないために僕が一番大切だと思うのは、僕たちが何もできない弱い立場の人間であると、自覚することだと思えます。スマートフォンなどで色々な情報を知り世間を知っているかのように感じてしまいますが、僕達はまだまだ半人前です。両親の注意、先生の注意、周囲の大人の注意に感謝し真剣に受けとめることが犯罪に巻き込まれないための最も重要な心がまえだと思えます。

